

指導資料



鹿児島県総合教育センター

家庭 第31号

- 高等学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成18年5月発行

「確かな学力」の育成を目指した高等学校家庭科学学習指導の工夫 - 実践的・体験的な学習活動を通して -

家庭科は，生徒が各自の家庭生活や地域における生活の充実向上を目指し，生活課題を解決できるようにすることや，適切に意思決定できるようにすることをねらいとしている。

生徒が，家庭科で学習したことを生活の場で実践するようになるためには，教科・科目の目標の実現を目指して，生徒の生活の実態を踏まえた具体的な事例を取り上げて教材を工夫したり，実践的・体験的な学習活動を通して指導したりすることが大切である。

これらの指導の充実が，自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力など「確かな学力」を育成することにつながると考える。

そこで，本稿では普通教科「家庭」における実践的・体験的な学習活動を通じた学習指導の工夫について具体的に述べる。

1 実践的・体験的な学習活動の在り方

学習指導要領解説では，指導計画作成上の配慮事項として「各科目に配当する総授業時数の10分の5以上を実験・実習に配当する。その際，実験・実習には，調査・研究，観察・見学，就業体験，乳幼児や高齢者との触れ合い交流体験などの学習活動が含まれる。」と示されており，実験・実習

等の実践的・体験的な学習活動を重視した学習指導を充実させることが必要である。また，疑似体験，討議，演習などを取り入れて授業を展開することも大切である。

次は，「家庭総合」の「(1)人の一生と家族・家庭」における学習活動例である。

(1) 調査・研究

- 現代家族をめぐる様々な問題を，新聞や雑誌，インターネットなどから集め，現状や課題を把握させる。
- 様々な生活上のリスク（疾病，事故失業，加齢など）を想定させ，それらに対して，どのような社会保障制度や社会福祉があるかについて調査・研究及び発表をさせる。

(2) 討議

- 各自が担う家庭での役割について取り上げ，固定的な男女の性別役割分業について考えさせる。
- 親子関係や夫婦関係などで生じやすい課題を取り上げ，家族関係の在り方について考えさせる。

(3) 演習

- 精神的自立や生活的自立，社会的自立など，自分自身の自立を自己評価し，今後の課題を立てさせる。

実験的・体験的な学習活動においては，学習内容に応じた一斉，グループ，個別といった様々な学習形態を工夫して，学習効果を高めることが大切である。

2 効果的なICT活用と学習活動

調理実習等の学習内容を、シミュレーションやアニメーションで具体的に理解させたり、栄養計算等のデータ分析を、表計算ソフトで効率的に行わせたりするといったICT活用は、実験・実習の考察等の学習活動に十分時間を掛けることにつながる。

写真1、2は、被服製作(エプロン)において、使用する道具の名称や布の裁断の仕方、まち針の打ち方、三つ折りの仕方などを製作工程の順番にまとめたものの一部である。実際に、被服製作の導入段階で提示したところ、生徒たちは「でき上がるまでの手順が分かり、製作意欲が高まった。」等の感想を述べていた。

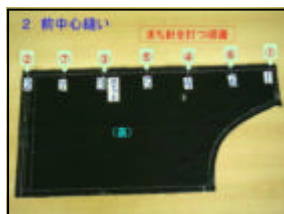


写真1



写真2

被服製作における例（県立松陽高等学校の実践を基に作成）
（写真をクリックすると拡大できます）

被服製作や調理実習等の指導に当たっては、師範する場面とICTを活用する場面とを使い分けて指導することが有効である。

3 実践的・体験的な学習活動の実践例

実践的・体験的活動を推進するためには、指導計画を工夫・改善することが大切である。ここに「家庭基礎」の指導計画について述べる。

(1) 年間指導計画

表1(3ページ)は、実践的・体験的な学習

活動の年間指導計画である。その具体的な内容については、以下のとおりである。

〔1学期〕

生徒にとって身近で具体的な内容の「(2) 家族の生活と健康」から入り、食、住生活を扱いホームプロジェクトへと発展させる。

家庭科学習の動機付けとして、新聞記事から家庭を取り巻く課題を把握させる。

「(4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」については、オリエンテーションとして、意義及び進め方を指導する。ホームプロジェクトは夏季休業期間を中心に実践させる。

「ア 食生活の管理と健康」については、栄養、食品、調理を相互に関連付けて指導し、実験・実習を中心に学習させる。

「ウ 住生活の管理と健康」については、住宅広告や住宅メーカーのパンフレット、住宅地図などを用いた調査・研究や照度測定実験をさせる。

〔2学期〕

2学期当初、衣生活の学習をした後に「(3) 消費生活と環境」を扱い、既習事項と関連付けて、これからの消費者として責任をもって行動できるようにすること等、具体的に考えさせる。また、学期の後半は「(1) 人の一生と家族・福祉」に入り、家族の一員としての役割を理解させる。

「イ 衣生活の管理と健康」については、ファッション雑誌や制服のラベルなどを用いた実習や演習をさせ、被服管理の視点から布地の吸水実験等を行わせる。

「ア 家族の経済と消費」については、消費者センターの資料や新聞記事などから具体的な事例を挙げて調査・研究及びロールプレイング等の活動をさせる。

「イ 消費行動と環境」については、日用品や生活排水などの生活に身近なものを使って実験、演習をさせる。

「ア 生涯発達と家族」については、家族をテーマにした絵や架空の一家などを資料にして討議や演習を行わせる。

〔3学期〕

「(1)人の一生と家族・福祉」の乳幼児と高齢者を扱い，子どもの健全な発達や高齢者の自立生活を支えるためには，家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを，これからの生活設計と関連付けて考えさせ「家庭基礎」学習のまとめをする。

「イ 乳幼児の発達と保育・福祉」については，親や家族，社会が果たす役割の重要性を視点として実験・実習をさせる。

「ウ 高齢者の生活と福祉」については，冬季休業期間の課題を基に高齢者の生活の現状を把握させ，疑似体験やシミュレーション活動をさせる。

「家庭基礎」学習のまとめとして，将来の生活設計を立案させる。

表1 「家庭基礎」(2単位)年間指導計画〔実践的・体験的な学習活動〕(県立甲南高等学校の実践を基に作成)

学期	学習項目	時数	実践的・体験的な学習活動 ○は長期休業期間の課題
一学期 (26時間)	家庭基礎を学ぶに当たって (4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	1	・ 新聞記事を切り抜く
	(2) 家族の生活と健康 ア 食生活の管理と健康	16	・ 食生活診断，スナック菓子に含まれる食塩量計算 ・ 乳製品の調理性に関する実験 ・ 調理の基礎(食品概量の目測や計量の仕方，包丁の扱いなど) ・ 調理実習(和食，中華，洋食)・ 栄養摂取量計算 ・ 食品添加物実験(発色剤，着色料)
	ウ 住生活の管理と健康	7	・ 住空間の分類 ・ 教室の照度測定 ・ 建ぺい率，容積率調査 ・ 住環境調査 ・ 20年後の家のリフォーム ・ 住宅購入シミュレーション ・ 一人暮らしの家を探す ○ 夏季休業期間の課題：ホームプロジェクト実施
二学期 (28時間)	ホームプロジェクトの実施について	1	
	ホームプロジェクト発表 (2) 家族の生活と健康 イ 衣生活の管理と健康	2	・ カラーコーディネート実習 ・ 布地の吸水実験 ・ 界面活性剤の実験
	(3) 消費生活と環境 ア 家族の経済と消費	8	・ 誕生から大学卒業までにかかる費用のシミュレーション ・ 問題商法のロールプレイング
三学期 (16時間)	イ 消費行動と環境	4	・ 生活排水の汚染調査(CODバックテスト) ・ 環境家計簿 ・ 買い物ゲーム ・ 環境問題啓発ミニポスター作成
	(1) 人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族	6	・ 家族を絵にする ・ 三世代の兄弟姉妹調べ ・ 婚姻届記入 ○ 冬季休業期間の課題：高齢者インタビュー
	(1) 人の一生と家族・福祉 イ 乳幼児の発達と保育・福祉	9	・ VTR視聴(「幼児の生活」に関する観察) ・ 紙おむつの吸水実験 ・ もく浴実習 ・ 絵本読み聞かせ実習 ・ 折り紙実習
	ウ 高齢者の生活と福祉	6	・ シニア体験，アイマスク体験 ・ 介護保険の利用シミュレーション
	ア 生涯発達と家族	1	・ 生活設計(家庭基礎学習のまとめ)

学習項目は，学習指導要領解説の「家庭基礎」における内容

■の内容は，表2に指導計画を提示

(2) 「消費行動と環境」の指導計画

表2(4ページ)は，実験や演習などの学習活動を組み込んだ指導計画である。実験や演習では，使用した弁当箱を洗い，その排水を試料にしたり，歯磨き粉や食品ラップなどの商品を比較したりするなど，生活に身近な教材を使って消費行動と環境との

かわりについて考えさせるようにした。

また，小単位における評価規準を示し，学習の到達度も明確にした。評価を取り入れて生徒の学習の実現状況を把握し，評価の結果を基に手だてを講じたり，次の指導方法の改善に生かしたりすることが大切である。

表2 「消費行動と環境」の指導計画

1 小単元名 「消費行動と環境」			
2 小単元の目標 現代の消費生活と環境のかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直すことができるようにする。			
3 小単元の指導計画 (3) 消費生活と環境 イ 消費行動と環境 (4時間) (ア) 消費生活と環境とのかかわり 1時間 (イ) 環境負荷の少ない生活への取組 3時間			
4 「(3) 消費生活と環境」の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
家庭の経済と消費、消費行動と環境などに関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費生活と環境のかかわりについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	実践的・体験的な学習活動を通して調査・研究し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の経済と消費、消費行動と環境について理解し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
5 指導計画と小単元の評価規準及び評価方法 (太字部分が実践的・体験的な学習活動)			
時間	学習活動(○は学習項目)	小単元の評価規準	評価方法等
1	○ 消費生活と自然環境 ・ 真の豊かな生活とは何かを考える。 ・ 大量生産・大量消費がもたらした環境問題や資源・エネルギー問題を考える。 ・ 生活排水の汚染調査(CODバックテスト)を基に生活を振り返り、生活の改善点を考える。	環境問題や資源・エネルギー問題について関心をもっている。 (関心・意欲・態度) 消費生活が環境に悪影響を及ぼしている事例について考え、消費生活を見直そうとしている。 (思考・判断)	発表の観察 活動観察 実験記録 自己評価
2 3	○ 環境にやさしい消費行動 ・ 地球温暖化防止の具体的な取組を通して、家庭生活の問題点に気付く。 ・ 環境家計簿を基に生活を振り返り、消費生活の工夫や改善点を考える。 ・ 買い物ゲーム(日用品の商品比較)によりこれまでの消費行動についての問題点を見付ける。 ・ 環境負荷の少ない商品を購入するための視点を考える。 ・ 循環型社会を目指した取組を通して、消費生活を見直す。 ・ 国際標準化機構(ISO)における企業の国際的な取組を知る。 ○ 環境にやさしいライフスタイル ・ グリーンコンシューマーの10原則を理解し生活を見直す。	各自の消費行動と環境問題や資源・エネルギー問題との関連について理解を深めている。 (思考・判断) 環境を配慮した具体的な消費行動を考え検討することができる。 (技能・表現) 循環型社会のための法律やリサイクルの流れを理解している。 (知識・理解) 循環型社会の実現を目指した消費行動に関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度) 環境に調和したライフスタイルの在り方について思考を深めている。 (思考・判断)	ワークシート 発表の観察 活動観察 実験記録 自己評価
4	○ 環境問題啓発 ・ 環境問題啓発ミニポスターを作成し、環境負荷の少ない消費生活への実践を考える。	環境負荷の少ない生活を目指し、具体的な事例を通して生活意識や生活様式を見直している。 (思考・判断) 環境負荷の少ない生活のための工夫を検討することができる。 (技能・表現)	作品 発表 相互評価 自己評価

「確かな学力」を育成するには、今まで述べてきたように実践的・体験的な学習活動等の充実を図り、習得した知識や技術、及び問題解決能力を深めることが大切である。

そのために、各学校においては、教材や評価方法の工夫・改善などの取組や、ホームプ

ロジェクト等との連携を図った指導を更に進め、教科の目標である「自立した生活者の育成」を視点として指導することが望まれる。

【参考文献】

文部科学省『中等教育資料 No.830』平成17年7月号
(教職研修課)

